



# 人間の幅広い研究を提供 男女共学の夜間大学院

## 人間科学、臨床心理、 幼児教育学の2領域1コース

医学の著しい進歩、人口の高齢化、疾病構造の変化、死の定義をめぐる論議、生涯教育の理念、子育てや家族関係の変容…。生と死をめぐるさまざまな問題がクローズアップされる中、人間に関する深い研究と教育をベースに、教育、医療、社会教育、社会福祉、宗教など幅広い分野で、今日の諸問題に対応できる高度な知識を備えたスペシャリストの育成を目的としている。

本研究科は、『人間科学領域』『臨床心理学領域』『幼児教育コース』の2領域1コース構成。発育・発達学、社会・社会福祉学、教育学、宗教学分野からの多角的・学際的な人間研究に加え、バイオ・サナトロジー（死生学）の視点からもアプローチしている点が、大きな特色だ。

幅広く意欲ある院生を募るため、男性・女性を問わず、社会人が働きながら学べるように講義は平日の夜間と土曜日を中心に開講。セメスター制や長期履修学生制度も導入され、人間科学領域・臨床心理学領域において博士後期課程も設置されている。

■人間科学領域  
発育・発達関連、社会・社会福祉学関連、教育学関連、宗教学関連、死生学関連の5分野において、それぞれの専門的研究・教育を実施。特に「死生学」（バイオ・サナトロジー）は人間の生と死に関する研究で、宗教学、倫理学など学際的な視点からのカリキュラムが特徴である。

■臨床心理学領域  
臨床心理士養成教育のための実践的な研究と教育を中心としている。本大

学院は、臨床心理士試験受験資格取得のための第一種大学院の指定を受けており、所定の資格課程科目を履修することによって、インターン経験なしに資格試験を受験可能。スペシャリストへの近道をたどることができる。

■幼児教育コース  
「敬神奉仕」の精神を具現化する幼児教育をテーマとし、幼稚園教諭専修免許資格取得を目的とした修士課程。専門性に幅広い教養と国際性をプラスし、世界で子供の幸せに貢献できる指導者を目指す。キリスト教精神の長い伝統を誇る東洋英和ならではのコース。

### 臨床心理士資格試験受験 第一種大学院

臨床心理学領域は、(財)日本臨床心理士資格認定協会から、臨床心理士資格試験受験第一種大学院として指定されている。

2007年度の臨床心理士試験では65名の修了生が合格。合格率は89%と、全体の合格率39%を大きく上回っている。



## 密度の濃い実践的教育で、質の高い臨床心理士を育成する



### 実践を通じて、知識・技法を磨くことを重視

東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科には、人間の発達・行動・精神に関するさまざまな領域・コースが設置されています。その中の一つである臨床心理学領域は、臨床心理士の育成を目指しており、臨床心理士資格試験受験第一種大学院に指定されています。

第一種大学院では、学生が在学中に臨床心理実習を行うことが義務づけられていますが、本研究科では特にこの実習授業を充実させています。六本木校地に開設されている「東洋英和こころの相談室」には、外部から多くのクライアントが訪れていますが、学生はここで教員の指導を受けながら、実際にカウンセリングを受け持ちます。修了までに最低2ケースは、カウンセリングを担当することが求められています。

また学生は、毎週開かれる「ケースカンファレンス」の場で、自分が担当しているカウンセリングの経過について、持ち回りで報告しなく

てはいけません。「ケースカンファレンス」には、臨床心理学領域の全教員と全学生が参加し、みんなで事例の検討・討議を行います。さらに実習経験についてのスーパービジョンを、学外の専門家から受けることも義務となっています。

加えて学生は在学中に一度は、自分が担当した事例についての論文を作成して、本学の『心理相談室紀要』に投稿・掲載されることが必須となっています。それとは別に修士論文の作成も行いますから、2年間の間に大きな論文を2本書かなくてはならないわけです。

### 授業の充実が、合格率の高さを生んだ

ここまで読んでくださったみなさんは、「東洋英和の臨床心理学領域に進学すると、ずいぶんハードな学生生活が待っていそうだな」という印象を抱かれたかもしれません。そういう方には申し訳ありませんが、もう少しハードな話を続けさせていただきます。

それは授業時数の多さについてです。本研究科では、単位の割り振りの上では1年次や2年次の必修科目になっている授業についても、「原則として2年間を通して授業に出ること」を学生に求めています。修士論文の作成も、普通は2年次になってから始めますが、本研究科では1年次から準備を開始します。

こうしたハードな学習や研究を学生に課しているのは、臨床心理の第一線で活躍できる人材になってもらうために、2年間で密度の濃い

学びの期間にしたいからです。その成果は、臨床心理士試験の合格率となって表れ、2007年度の臨床心理士試験では本研究科修了生の合格率は86%。全体の合格率69%を上回っています。

### 「豊かな感受性」と「冷静な分析力」を育てる

臨床心理士には、心に葛藤を抱えて苦しんでいるクライアントに共感できる感受性の豊かさや、冷静にクライアントの状況を把握できる分析力や論理力の両者が求められます。修士課程の2年間は、両方の能力を磨くとともに、そのバランスを取るためのトレーニングの期間にあたるといえます。

臨床心理士自身が、心の中に葛藤を抱えたままだと、クライアントに対して適切な距離をおいて支援することができなくなってしまいます。そのため臨床心理学の勉強は、単に知識や技能を身につければよいわけではなく、自分自身を見つめ、分析する訓練も不可欠となります。それは時に苦しい作業ですが、そこを乗り越えないとプロの臨床心理士にはなれません。教員が全力でサポートいたしますので、「苦しんでいるクライアントを援助したい」という高い志を抱かれている方に、ぜひ本研究科に来ていただければと思います。

#### ※注

『日経大学・大学院ガイド2009年春』の原稿をもとに作成しており、実際の出版物とは異なります。東洋英和女学院大学大学院